



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2018

No. 40 (平成31年3月19日発行)

佐高 SGH ファイル

高1CTP 英語ディベート終了

3学期の高校1年生の **Critical Thinking Program (CTP)** では、英語ディベートが行われました。2学期での日本語ディベートに続き、さらに、クリティカル・シンキングを深めることができました。帝京大の若山昇先生の「**それって、ホント？ なぜ、本当？**」の言葉を繰り返しながら、活動にあっていた人も多いのではないのでしょうか。ただ単に批判するだけでなく、その信憑性を考え、そのデータや考え方がどのように今後の事象に影響を与えるかなど様々なことを短時間で考える訓練をすることができました。英語でのディベートとなったため、事前に用意しておいた原稿を読むのが精一杯の人もいたと思いますが、このような経験を積むことでさらに、できることが多くなってきます。また、人を説得するのにデータなどの事実を使えばいいことも理解できたのではないのでしょうか。2年生では地域課題研究が異文化理解研究となり、さらに扱うものが広範囲に及びます。1年生のCTPで学んだことを、2年生でのデータ収集や論理的思考に役立たせてください。今回の論題は、教科連携ということで、国語、地・公、生物から出題していただきました。

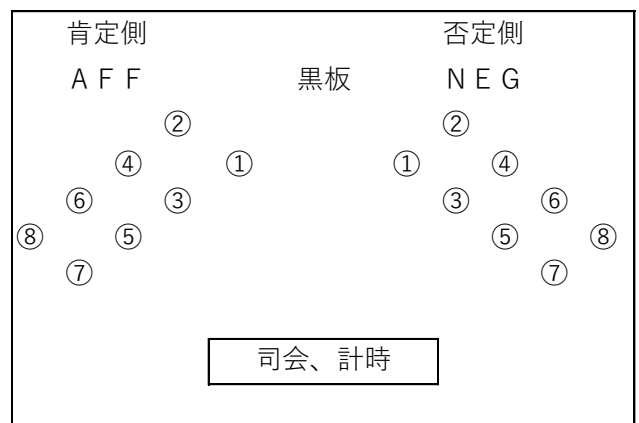
高1 3学期 CTP 英語ディベート実施計画

日にち	内容・論題	場所
1/10 (木)⑥	概要説明 (グループ分け、テーマ、試合予定日、対戦相手、サイド等の決定)	1年1~4組 教室
1/10 (木)⑥	ディベート準備 (グループ毎)	1年1~4組 教室
1/17 (木)⑥	第1回ディベート 試合① 論題:「 童話や昔話の結末はハッピーエンドにするべきだ 」(国語との連携)	1年1~4組 教室
1/24 (木)⑥	第2回ディベート 試合② 論題:「 原子力発電を推進すべきだ 」(地・公との連携)	1年1~4組 教室
1/31 (木)⑥	第3回ディベート 試合③ 論題:「 日本はサマータイム制を導入すべきだ 」(生物との連携) 立論の2つのポイントの内1つは生物に関連した論とすること	旭城 H (1・2組)、 選択教室 4(3・4組)

8人制ディベート(それぞれ2名ずつ)

	肯定側	否定側
1	立論	立論
2	アタック(反駁)	アタック(反駁)
3	ディフェンス(再反駁)	ディフェンス(再反駁)
4	サマリー(総括)	サマリー(総括)

机の配置



参加者の感想

私は原発についてのディベートで賛成派での参加だった。私は元々、原発容認の意見を持っていたのでディベート自体はとてもやりやすかった。しかし、否定派の意見も聞いて原発の危険性や、資金面での問題を改めて理解することができた。また、質疑応答の時間では少々手詰まってしまったもののしっかりとした受け答えができたと思った。そして、仲間と助け合う大切さも同時に学んだ。質疑応答など仲間が互いに協力し合うことは大切だと思った。

1年1組 秋山 颯多郎

初めてのディフェンスで、最初は何を用意したら良いのか全然分からずかなり焦った。しかし、野城先生から立論とディフェンスは一緒に考えるといいよ とアドバイスをいただきそれを参考に一緒に活動することが出来た。英語ディベートは日本語ディベートの時より聞き取るのも言うのも大変だったので、チームで協力して、自分では結構よいディベートができたのではないかと思った。今回の経験がこれから将来何かの役に立てばいいなと思う。

1年2組 澤田 絵里

議題が難しかったので日本語から英語にすることにとっても苦労しました。議題が難しいので単語も難しい言葉が多く、聞き手に伝わりにくいのでできるだけ簡単な英語で伝わりやすくすることを心がけました。いかに簡単な英語で聞き手に伝わりやすく難しい議題の内容を理解してもらえるかということを中心に考えて準備をしました。また、聞く時はわかる単語をより多く拾い文を繋げていくことを意識しました。大変でしたがやってみると案外できたので何事も挑戦が大切だなと感じました。

1年3組 野城 杏奈

英語ディベートを今回初めてやってみて、日本語では簡単に立論を立てられたけど、実際にそれを英語にするにはわかりやすく言い換えなければいけなかったり、また、英語もひとつの単語にいくつかの意味があってどの単語を使うのが1番よいか考えたりと、完成するまでとても大変だった。しかし、みんなでいい論を出し合って協力しながら作り上げられたのでよかった。また、英語ディベートを通して自分の英語力の低さがわかったのもっともっと英語を頑張りたいと思った。

1年4組 西巻 怜和

今回の英語ディベートで僕はサマリーをやりました。サマリーが2人いるところなのですが、もう1人が休み1人でやることになりました。サマリーは想像以上に大変な役割で、最後までしっかりと総括することは出来なかったと思います。ですが、今回のディベートで学べたことが沢山ありました。そして英語ディベートについてだけでなく、協力することの大切さなども学べたのでとてもいい経験になりました。今後も似たようなことが、何度もあると思うので、今回の経験を活かし上手くできるように頑張りたいと思います。

1年3組 大川 高史